

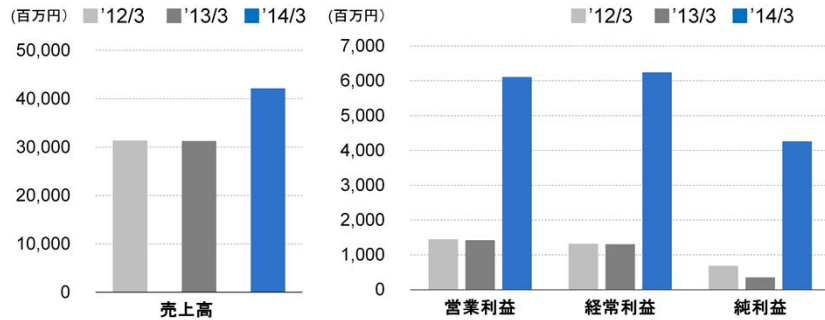
2014年3月期(第33期) 決算説明会

ローランド ディー.ジー.株式会社
2014年5月16日

Imagine.  Roland®

2014年3月期(33期)の決算報告をさせていただきます。

2014年3月期 通期 連結業績



(百万円)	'12/3	'13/3	'14/3	前期比
売上高	31,379	31,264	42,141	134.8%
営業利益	1,449	1,423	6,111	429.2%
経常利益	1,324	1,306	6,244	477.8%
純利益	687	356	4,265	1196.6%

【主要通貨 期中平均レート】

(円)	'13/3	'14/3	円安率
USD	79.82	97.65	22.3%
EUR	102.65	129.71	26.4%

©Roland DG Corporation 2014

Imagine Roland

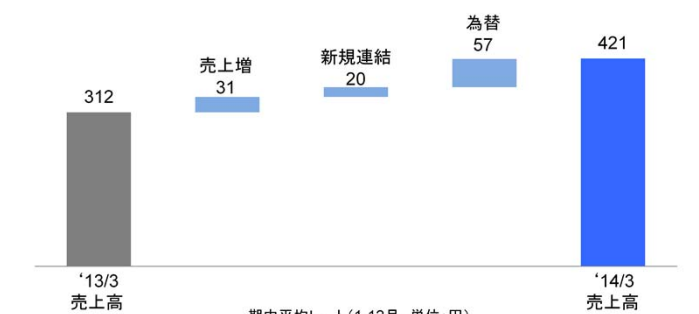
当期の経営環境は、米国では緩やかな景気の回復基調が持続し、欧州では南欧において景気低迷が続いたものの、ユーロ圏全体では成長率がプラスに転じるなど、明るい兆しが見られました。アジアでは、中国やインドなどで経済成長の鈍化傾向が続きましたが、日本においてはアベノミクス効果による円安や株価の上昇をうけ、景気は緩やかに回復しました。

こうした中、当社の売上高は、前期から当期に発売した新製品が好調だったことや円安効果などにより、大幅な増収となりました。

費用面では、新規連結子会社の本格稼働や積極的な販売促進に注力した結果、販売費及び一般管理費が前期に比べ増加したものの、連結効果に加えて新製品を中心に生産量が増加したことや、円安にともなう海外子会社の仕入れコストの低減効果などにより、原価率が大幅に改善いたしました。この結果、営業利益、経常利益及び当期純利益いずれも大幅な増益となりました。

2014年3月期 連結売上高 増減要因（前期比）

単位：億円



	期中平均レート(1-12月、単位：円)						
	'13/3	'14/3	円安率	'13/3	'14/3	円安率	
USD	79.82	97.65	22.3%	THB	2.57	3.18	23.7%
EUR	102.65	129.71	26.4%	CNY	-	15.91	-
GBP	126.51	152.73	20.7%	KRW	-	0.0894	-
DKK	13.79	17.39	26.1%	BRL	-	44.97	-
AUD	82.68	94.41	14.2%				

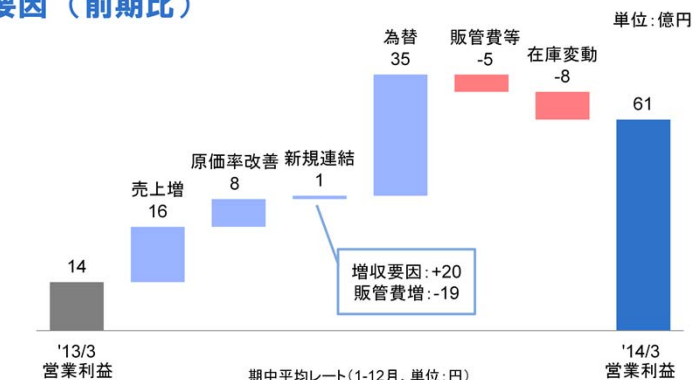
※連結子会社決算期は1-12月

©Roland DG Corporation 2014

Imagine Roland

売上高を前期と比較しますと、実質的な売上増収分で31億円、新規連結子会社の増加で20億円、円安効果により57億円のプラス効果があり、合計では、108億円の増収となりました。

2014年3月期 連結営業利益 増減要因（前期比）



	期中平均レート(1-12月、単位：円)						
	'13/3	'14/3	円安率	'13/3	'14/3	円安率	
USD	79.82	97.65	22.3%	THB	2.57	3.18	23.7%
EUR	102.65	129.71	26.4%	CNY	-	15.91	-
GBP	126.51	152.73	20.7%	KRW	-	0.0894	-
DKK	13.79	17.39	26.1%	BRL	-	44.97	-
AUD	82.68	94.41	14.2%				

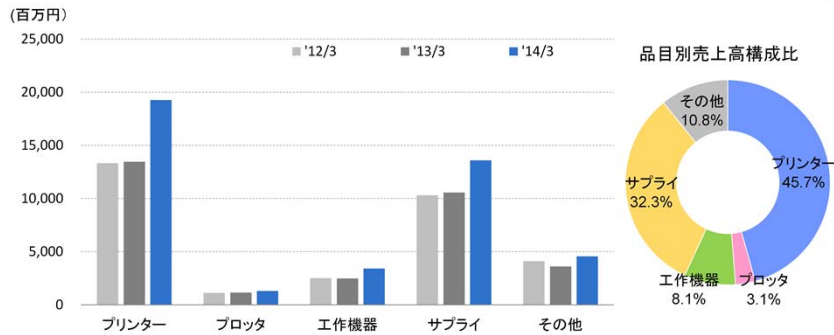
※連結子会社決算期は1-12月

©Roland DG Corporation 2014

Imagine. Roland

次に、営業利益の増減要因ですが、前期と比較しますと、売上の純増による粗利の増加や原価率の改善、新規連結子会社の効果に加えて、為替の円安効果により、販管費増や在庫変動費用を吸収し、合計では、47億円の増益となりました。

2014年3月期 連結品目別売上高



	'13/3		'14/3		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	邦貨	原通貨
プリンター	13,453	43.0%	19,262	45.7%	143.2%	124.2%
プロッタ	1,148	3.7%	1,302	3.1%	113.4%	98.2%
工作機器	2,478	7.9%	3,415	8.1%	137.8%	121.5%
サプライ	10,570	33.8%	13,602	32.3%	128.7%	109.1%
その他	3,613	11.6%	4,558	10.8%	126.1%	112.0%
合計	31,264	100.0%	42,141	100.0%	134.8%	116.5%

©Roland DG Corporation 2014

imagine. Roland

次に、品目別売上高です。

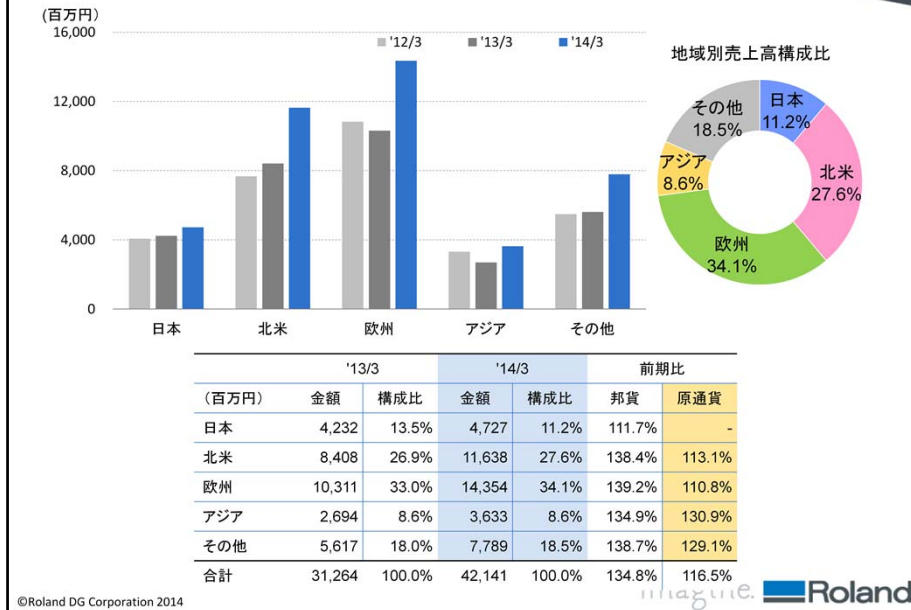
プリンターでは、主に、サイン向けプロ用新製品2機種の好調が継続したことにより、前期比で143%となりました。

なお、表の右端にあります「原通貨」が、為替影響を除いた実質的な増減率となっておりますのでご参考にしてください。

工作機器では、デンタル加工機の販売が欧米に加えて、中国や日本でも拡大し、前期比137%となりました。

またサプライにおいても、北米、欧州の先進国を中心にインクが増加して、前期比128%となりました。

2014年3月期 連結地域別売上高



地域別売上高ですが、

日本では、サイン向けプリンターの新製品が買い替え需要を中心に伸びたことに加え、本格的な販売を開始したデンタル加工機が伸長しました。

特に、一部の義歯素材に対する保険適用が2014年4月よりスタートすることに伴って、期末にかけてデンタル加工機の需要が増加したことも増収要因となりました。

北米では、プリンターの新製品に加えて既存機種の上も増加したことや、デンタル加工機のソリューション提案が成果をあげたことなどにより、前期比で138%となりました。

欧州でも北米同様、サイン用プリンターのプロ機種が伸びたことに加えて、小型フラットベッドタイプのUVプリンターが売上増加に貢献し、前期比139%となりました。

アジアでは、中国でサイン用プリンターの売上が増加いたしました。

また、中国、韓国およびオーストラリアの子会社による現地代理店に対する直接的営業が開始されるなど販売網強化の成果も出始め、前期比134%となりました。

その他地域では、ブラジル子会社の連結効果に加え、オセアニアやアフリカなども堅調に推移した結果、前期比138%となりました。

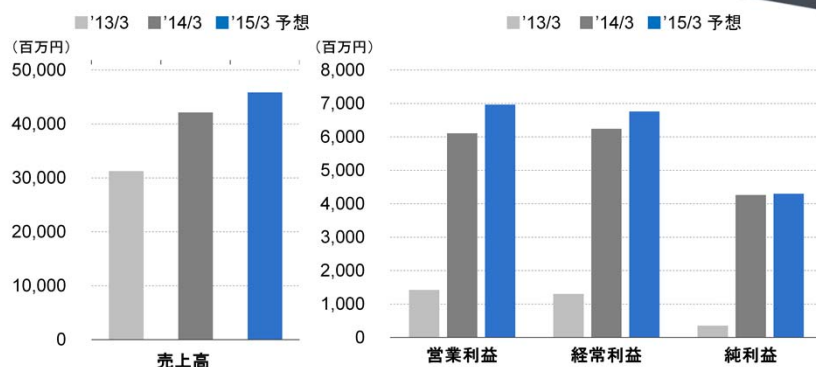
2015年3月期 通期 連結業績 予想

©Roland DG Corporation 2014

Imagine.  Roland®

次に、2015年3月期(第34期)の連結業績予想についてご説明いたします。

2015年3月期 連結業績予想



(百万円)	'13/3	'14/3	'15/3 予想	前期比
売上高	31,264	42,141	45,870	108.8%
営業利益	1,423	6,111	6,970	114.1%
経常利益	1,306	6,244	6,760	108.3%
純利益	356	4,265	4,300	100.8%

【主要通貨 期中平均レート】

(円)	'14/3	'15/3 予想	円安率
USD	97.65	100.00	2.4%
EUR	129.71	135.00	4.1%

©Roland DG Corporation 2014

Imagine Roland

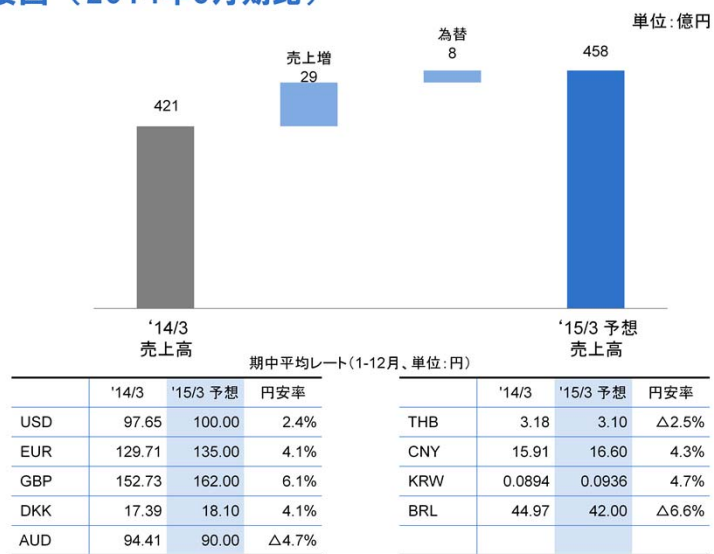
2015年3月期の主な為替レートは、USDドルを100円、ユーロは135円を前提として、

売上高	458億70百万円	前期比	108.8%
営業利益	69億70百万円	〃	114.1%
経常利益	67億60百万円	〃	108.3%
当期純利益	43億00百万円	〃	100.8%

を見込んでおります。

なお、2015年3月期は、中期計画の2年目にあたります。
「中期計画の見直し」については、のちほどご説明させていただきます。

2015年3月期 連結売上高予想 増減要因（2014年3月期比）



©Roland DG Corporation 2014

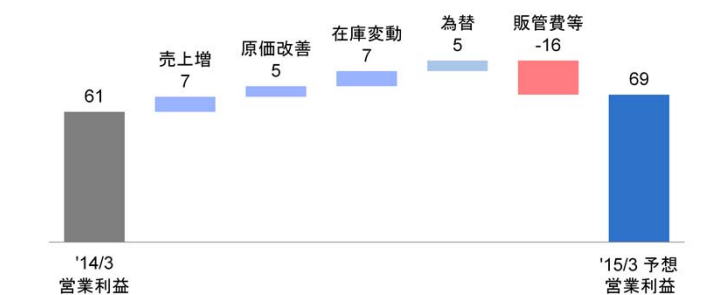
※連結子会社決算期は1-12月

Imagine. Roland

連結売上高予想の増減要因ですが、当期と比較すると、
実質的な売上増収で29億円、為替円安の効果で8億円、合計では37億円の増収を見込んでいます。

2015年3月期 通期 連結営業利益 増減要因（2014年3月期比）

単位：億円



期中平均レート(1-12月、単位：円)

	'14/3	'15/3 予想	円安率
USD	97.65	100.00	2.4%
EUR	129.71	135.00	4.1%
GBP	152.73	162.00	6.1%
DKK	17.39	18.10	4.1%
AUD	94.41	90.00	△4.7%

	'14/3	'15/3 予想	円安率
THB	3.18	3.10	△2.5%
CNY	15.91	16.60	4.3%
KRW	0.0894	0.0936	4.7%
BRL	44.97	42.00	△6.6%

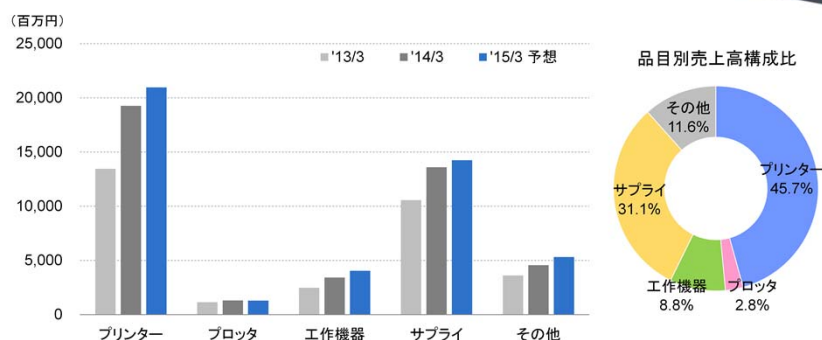
※連結子会社決算期は1-12月

©Roland DG Corporation 2014

Imagine. Roland

連結営業利益予想の増減要因ですが、当期と比較すると、売上の純増による粗利の増加や原価率の改善、為替の円安効果により、販管費の増加を吸収し、合計では、8億円の増益を予想しております。

2015年3月期 連結品目別売上高予想



	'14/3		'15/3 予想		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	邦貨	原通貨
プリンター	19,262	45.7%	20,960	45.7%	108.8%	106.8%
プロッタ	1,302	3.1%	1,290	2.8%	99.0%	97.3%
工作機器	3,415	8.1%	4,040	8.8%	118.3%	116.0%
サプライ	13,602	32.3%	14,250	31.1%	104.8%	102.7%
その他	4,558	10.8%	5,320	11.6%	116.7%	114.8%
合計	42,141	100.0%	45,870	100.0%	108.8%	106.8%

©Roland DG Corporation 2014

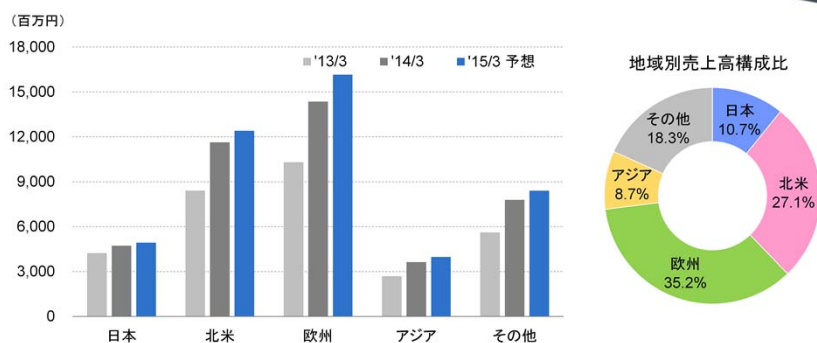
imagine. Roland

品目別売上高予想ですが、プリンターは、当期に引き続き、サイン向けプロ用2機種と昨年10月にモデルチェンジしたスタンダードの主力機種を中心に、増収を見込んでいます。

工作機器では、販売エリアが順調に拡大しているデンタル加工機が主な牽引役となります。

サプライは、プリンターの伸長と同様に、増収を予想しています。

2015年3月期 連結地域別売上高予想



	'14/3		'15/3 予想		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	邦貨	原通貨
日本	4,727	11.2%	4,930	10.7%	104.3%	-
北米	11,638	27.6%	12,410	27.1%	106.6%	104.1%
欧州	14,354	34.1%	16,150	35.2%	112.5%	107.8%
アジア	3,633	8.6%	3,980	8.7%	109.5%	108.0%
その他	7,789	18.5%	8,400	18.3%	107.8%	109.9%
合計	42,141	100.0%	45,870	100.0%	108.8%	106.8%

©Roland DG Corporation 2014

imagine. Roland

地域別売上高予想ですが、すべての地域で増収を予想しております。

北米では、当期と同様、プリンターやデンタル加工機が売上に貢献し、引き続き順調に推移する見込みです。

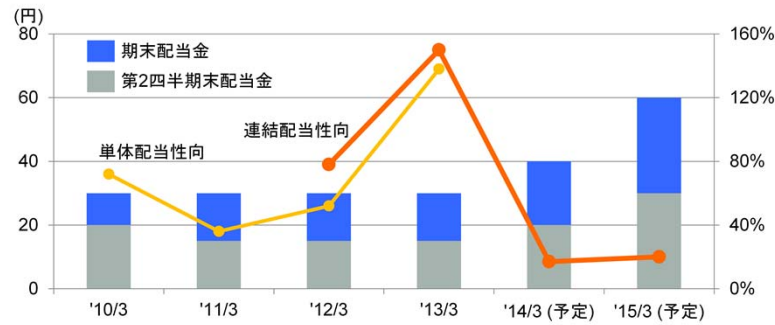
欧州では、ドイツなどでの底堅い販売に加えて、南欧地域の回復を見込んでいます。

またアジアやその他地域は、現地代理店への日本からの直接販売から当社の販売子会社経由へと順次商流を再編していくことで、マーケティングやプロモーションの強化を図り、販売拡大を目指します。

株主還元

1株配当金および配当性向

2014年3月期からの配当方針：連結利益に対する配当性向20%を念頭に安定配当を継続



		2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3(予定)	2015/3(予定)
1株配当金	年間	30円	30円	30円	30円	40円	60円
	期末	10円	15円	15円	15円	20円	30円
	第2四半期末	20円	15円	15円	15円	20円	30円
配当性向	連結			78%	150%	17%	20%
	単体	72%	36%	52%	138%		

※従来目標は単体利益に対する配当性向30%

©Roland DG Corporation 2014

Imagine. Roland

株主還元についてです。

配当に関する基本方針につきましては、グローバル経営の観点から連結利益をベースとし、配当性向20%を念頭に、安定した配当を継続的に実施することを目標としております。

2014年3月期 期末の配当金につきましては、期初の予定どおり20円、第2四半期の配当金20円とあわせ、年間では前期から10円増配の40円とさせていただきます。なお、年間での連結利益に対する配当性向は16.7%となります。

また、2015年3月期につきましては、第2四半期および期末ともに30円、年間では20円増配の60円とさせていただきます。

2014-2015の連結数値計画

事業動向と想定為替レートを見直し数値計画を修正

	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)		2015年度 (平成27年度)	
	実績	当初計画	修正計画	当初計画	修正計画
売上高	421億円	400億円	458億円	450億円	494億円
営業利益	61億円	30億円	69億円	45億円	75億円
営業利益率	14%	7%	15%	10%	15%
1米ドル	97円	90円	100円	90円	100円
1ユーロ	127円	120円	135円	120円	135円

©Roland DG Corporation 2014

Imagine. Roland

ここまで、2015年3月期の業績予想についてお話ししましたが、決算発表と併せて、「中期経営計画の見直し」についても開示いたしました。

これは、当初計画を策定した時点と比べて、為替水準や事業動向が大きく変化し、その結果、中期計画の初年度となる当期に、最終年度の利益計画を達成いたしましたので、見直しを行ったものです。

主に為替レートの動向を踏まえて、最終年度の数値目標を、

売上高494億円、
営業利益75億円、
営業利益率15%

と修正いたします。

前提となる為替レートは、当初の米ドル90円、ユーロ120円から、それぞれ100円、135円へ変更いたしました。

なお、基本方針と重点施策に変更はなく、引き続き、新たな成長のための構造改革に取り組んでまいります。

事業の状況

©Roland DG Corporation 2014

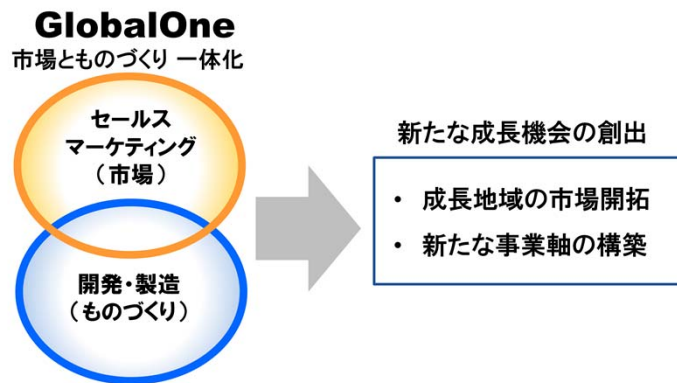
Imagine.  Roland®

続いて、事業の状況についてご報告いたします。

新たな成長に向けて

中期経営計画の基本方針(2013-2015年度)

GlobalOne 構造改革を推進し、新たな成長への経営基盤を構築する

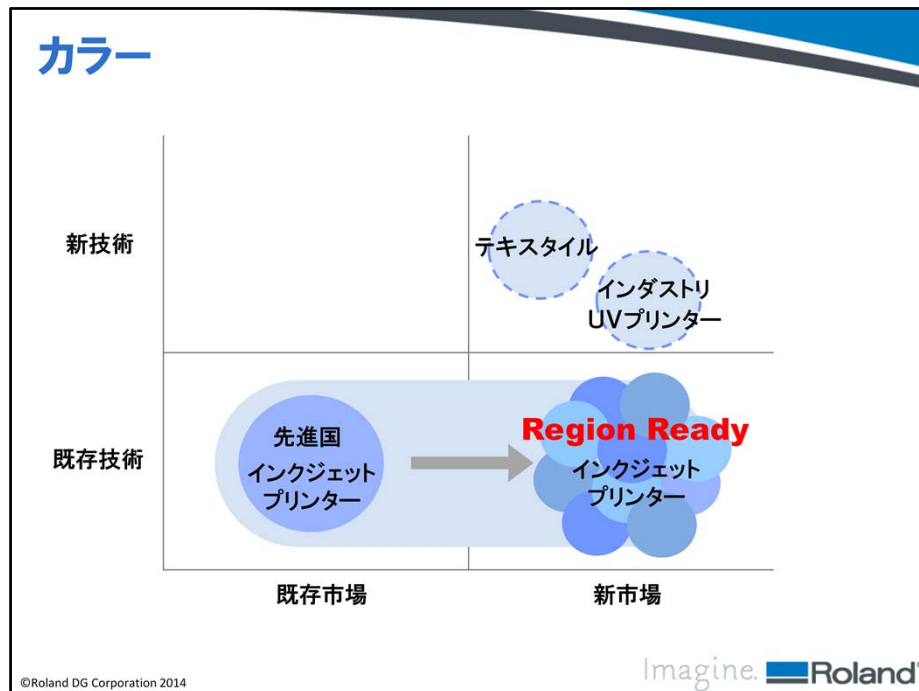


©Roland DG Corporation 2014

Imagine. 

当社では、「新たな成長」に向けて、「成長地域の市場開拓」と「新たな事業軸の構築」に取り組んでいます。

また、その基盤として、グループの「セールス・マーケティング」機能と、「ものづくり」機能とを一体化する「Global One」構造改革を進めております。



最初に、カラー分野です。

サイン事業は、先進国を中心に事業展開してまいりましたが、新興国地域も含めグローバルに、お客様に適したソリューションを提供する「Region Ready (リージョン・レディ)」に取り組んでいます。

「Region Ready (リージョン・レディ)」に向けて、当期は、生産・販売体制を再構築し、新たな成長のスタートを切ることができました。

タイ生産の拡大

	2013年末実績	2014年
組立人員数	40名	
年間生産台数	2,800台	7,500台(予定)
現地調達率	25%	40% (目標)



Roland Digital Group (Thailand) Ltd.

Samut Sakhon Province Thailand
シンサコン工業団地 (2012年10月生産開始)

2013年 タイ工場 生産製品



現在、増築工事中のタイ工場(2014年 9月完了予定)

©Roland DG Corporation 2014

Imagine. Roland

2012年の10月に稼働したタイの工場では、プリンターの主力製品Versaシリーズを生産しています。

現在、作業者は40名で、プリンター全体の約30%を生産しています。

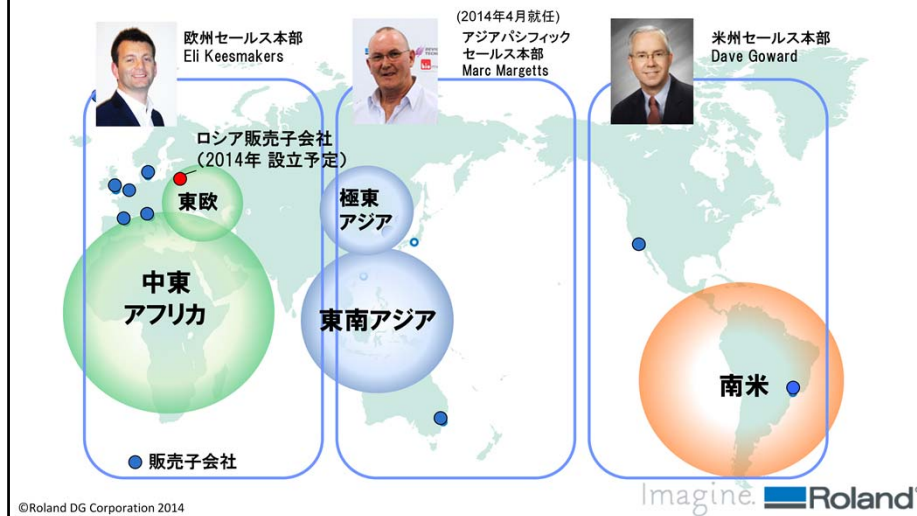
日本生産同様のデジタル屋台方式を取り入れて、高い品質を確保しながら、当期の生産増に対応しました。

タイ工場は現在、増床工事を行っており、今期は年間7,500台の生産を見込んでいます。

併せて、部品の現地調達率40%を目指し、収益力の高いコスト構造づくりを進めてまいります。

3地域ブロック販売体制

- 3つの地域本部体制とし、各本部が地域全体をマネジメント
- ローカルNo.1の実績を活かして、成長地域での市場形成を推進

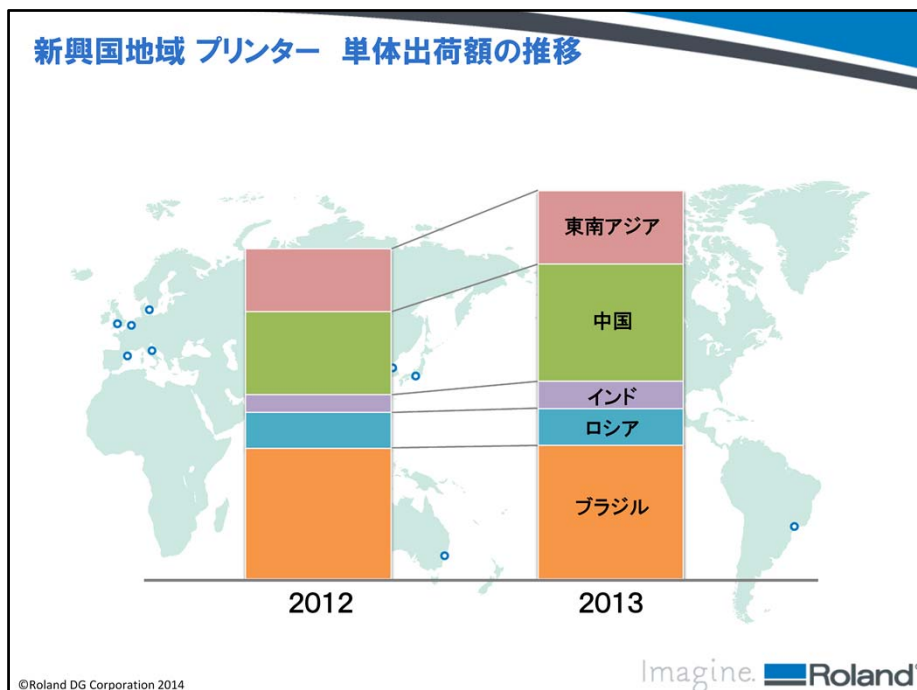


販売体制については、3つの地域本部体制とし、各本部が地域全体をマネジメントする体制に改編しました。

新興国は、従来、現地代理店経由の販売をおこなってきましたが、3地域ブロックに再編し、現地に近い販売子会社が現地代理店とともに営業活動を行います。当社の販売子会社は、欧米のサイン市場でローカルNo.1を築いてきた実績があり、彼らの経験やノウハウを活かして、成長地域のニーズをつかみ、ものづくりと連携して「Region Ready」を進めてまいります。

販売子会社の増強について、2012年から13年にかけて、中国、韓国、ブラジルに、新たに販売子会社を立ち上げました。今期はロシアへの新設を予定しています。

新興国地域 プリンター 単体出荷額の推移



これらの構造改革のもとで、当期、プリンター全体の単体出荷台数が前年比で約15%増加しました。

新興国地域では、グラフのように伸びが見られますが、特に中国、東南アジアで伸長しました。



こちらが、現在の主力製品のラインナップです。グローバルに市場を捉え、充実したラインナップになりました。

2013年4月に発売したプロモデルのプリント専用機「XF-640」は、従来モデルに対して約2.5倍の革新的印刷スピードを実現し、当期の売上増に貢献しました。

プリント&カット機の「XR-640」は、高性能のフラッグシップモデルで、先代モデルからの買い替え需要を促進しました。

2013年10月にモデルチェンジした主力機種「Versa CAMM VS-iシリーズ」は、グローバルに広く需要を獲得しています。

プリント専用機「Versa Artシリーズ」は、新興国地域のニーズを取り込み、中国では前期に比べ2倍の販売を達成しました。

UVプリンター で用途確立

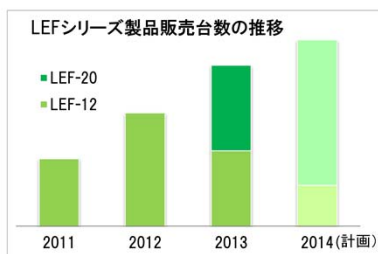
卓上UVプリンター LEFシリーズ

2013年10月発売



画質や表現力の高さに加え、
印刷サイズとスピードを2倍に向上

- 使いやすく安全、洗練されたコンパクト設計を追求し、
少量プリント、オンデマンドプリント用途に店頭やオフィスでの活用を促進



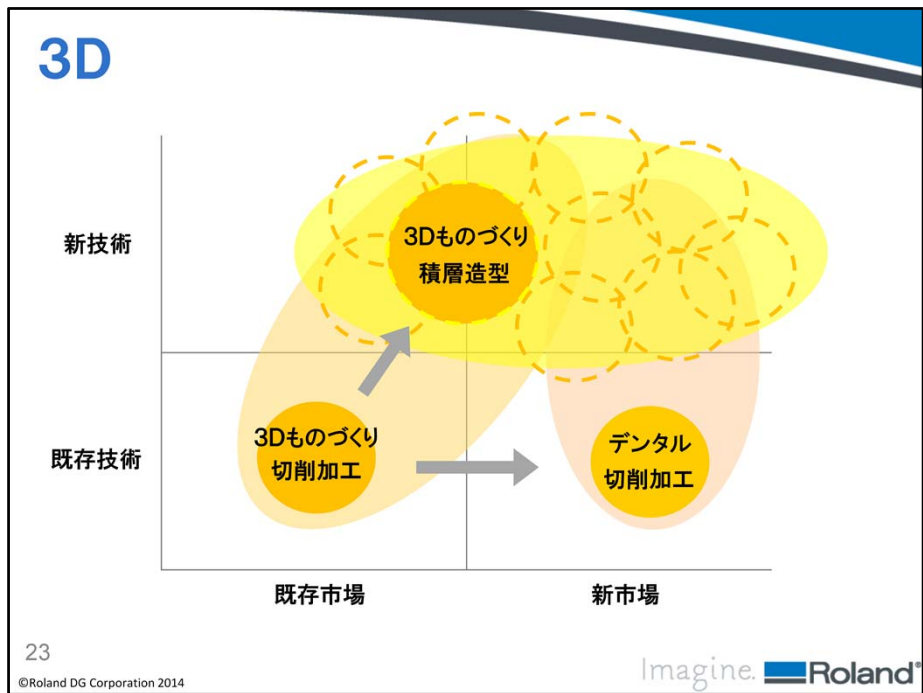
©Roland DG Corporation 2014

Imagine. Roland

UVプリンターでは、2013年10月に卓上型LEFシリーズの新製品を発売しました。
当社のUVプリンターは画質や表現力の高さを強みとしていますが、新製品LEF-20では、印刷サイズとスピードを2倍に上げて、生産性を大幅に向上しました。

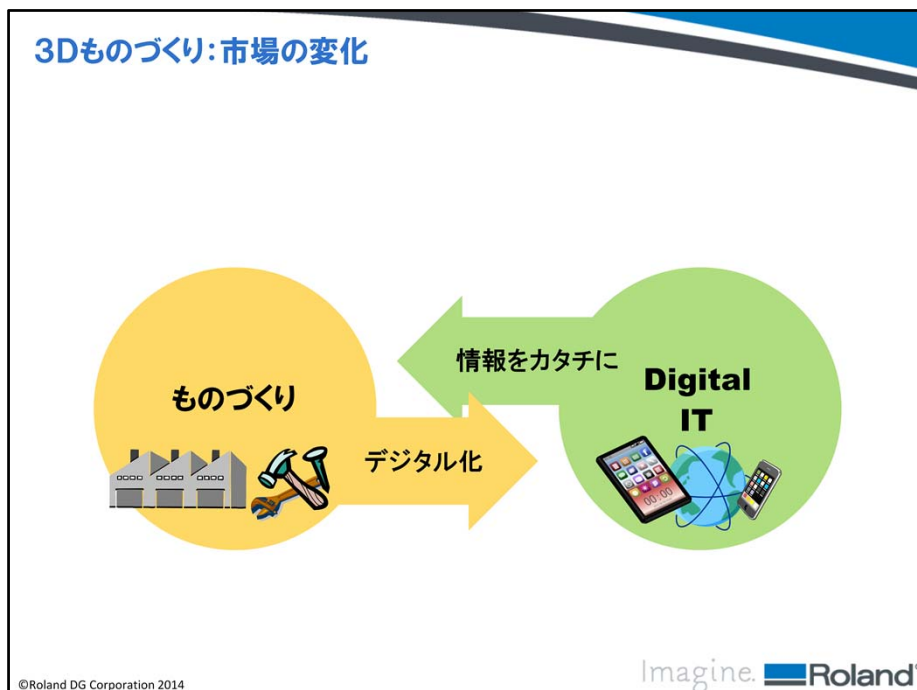
これによって、スマートフォンケース制作のニーズで、ヨーロッパのショップチェーンの引き合いを獲得するなど、需要を伸ばしています。

今後も使いやすさを追求し、店頭やオフィスでの活用を促進してまいります。



次に、3D分野についてご報告いたします。

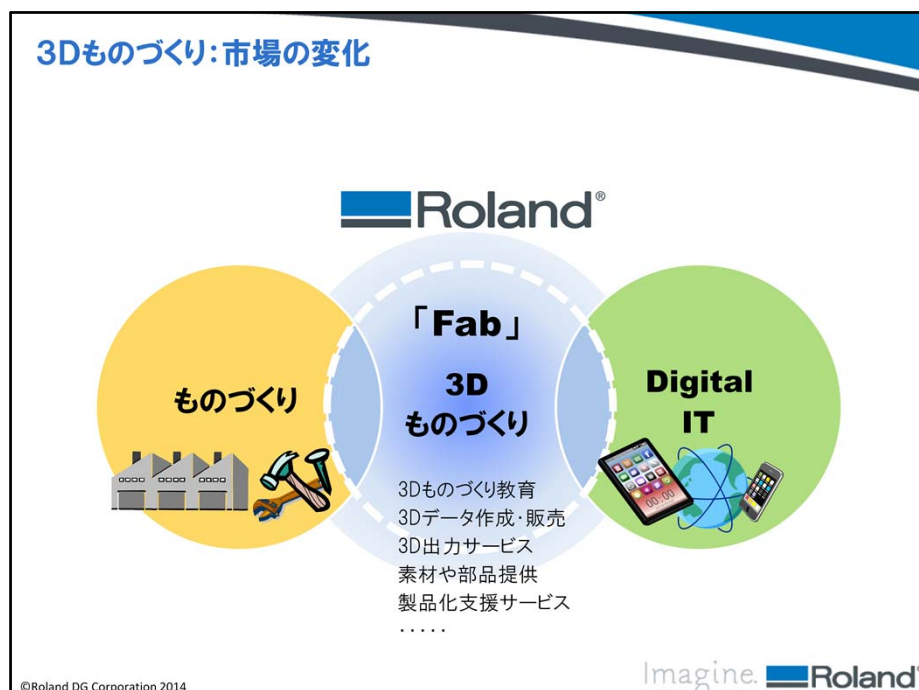
3Dものづくり:市場の変化



「デジタル／IT」技術は急速に進歩し、スマートフォンやクラウドの「デジタル」空間で、誰もが仮想的な創造を楽しめるようになりました。さらに、その延長に「3Dプリンター」が出現して、人々の造形への興味が掻き立てられています。

一方、「ものづくり」はどんなに時代が変わろうとも、人々の生活を便利に豊かにするために粛々と続き、無くなることはありません。しかし、社会変化のスピードや「デジタル技術」の進化を受けて、「ものづくりのデジタル化」も進んでいます。

3Dものづくり:市場の変化



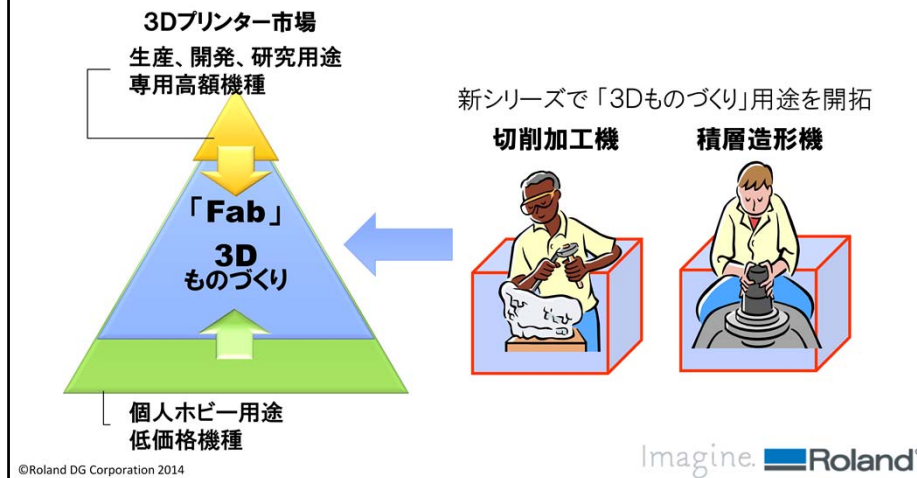
「ものづくり」と「デジタル」とが融合する領域は、双方から「3Dものづくり」へのニーズが生まれ、発展的な市場になると予想しています。

Fablab Japan(ファブラボ・ジャパン)代表の慶応大学 田中浩也准教授は、この領域を「Fab産業」と位置付けていますが、ここは、デジタルネイティブが「ものづくり」の精神を引き継ぎ、新たな創造の世界を切り開いていく新しい領域でもあると考えています。

当社は、この領域を今後のターゲット市場として、「小型3D切削加工機」と「小型3D積層造型機(3Dプリンター)」の2つの新製品を開発しており、今秋の発売を目指しています。

3Dものづくり:新シリーズ開発

- ものづくりの基本「切削ツール」「積層ツール」を新シリーズで発売
- 「切削」「積層」の組み合わせは、当社特有のデジタルソリューション



現在、「3Dプリンター」が世界中で大変なブームとなっていますが、市場は大きく二極化しています。

一方は、製造業で使われる鋳型専用機や、大型の試作品を作るもの、または医療分野で臓器のモデルをつくるなど、専門性の高い高額製品であり、一方は、家電量販店で売られるような個人のホビー用途で使われる、簡単で安価な3Dプリンターです。

当社は、この二極の間にある潜在的な「3Dものづくり」領域をターゲットに、ものづくりの基本である「削る=切削」「盛る=積層」2つの手法を新製品として提供し、3D事業の新たなスタートを切ります。

一般的な3Dプリンターのコンセプトは、「3Dデータを立体物にする」というものだと思いますが、当社では、「切削」と「積層」2つの手法を組み合わせ、「頭の中のイメージを形状に変える」、「ものづくり」の実用的なツールを提供します。

当社では、切削加工機をホビー用途から研究・工業デザイン用途まで、さまざまな市場に累計20,000台販売し、20年以上の実績とブランド力があります。ここに積層ツールを加えることで、あらゆる形をつくるできるようになり、対象市場はさらに広がります。

3Dメディカル:デンタル

デンタル切削加工機 DWXシリーズ

2013年10月発売



DWX-50

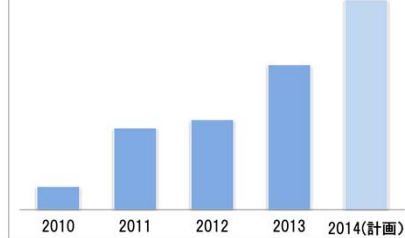


DWX-4



デンタルクリニック向けに
4軸化、小型化、低価格化

デンタル向け製品販売台数の推移



米国：販売パートナー協業で顧客サポート強化
日本：義歯素材ハイブリッドレジンの保険適用
決定により販売拡大
中国：販売子会社の直接営業で市場形成
欧州：アカデミー増設など事業基盤の構築



ドイツ アカデミー

©Roland DG Corporation 2014

Imagine. Roland

デンタル分野には入れ歯などの義歯制作用途に、デスクトップサイズで扱いやすいデンタル切削加工機を提供しています。

歯科技工所向けの5軸加工機DWX-50に加え、当期は、デンタルクリニックをターゲットにした4軸の小型機種 DWX-4を発売し、ラインナップを強化しました。

販売面では、米国で現地販売パートナーによるサポート体制を強化し、工程を丁寧にサポートすることで顧客を獲得し、順調に売り上げを伸ばしました。

日本では、増税前の駆け込み需要に加え、義歯やかぶせものに使う歯科用ハイブリッドレジンの保険適用が決まったことで売上が拡大を続けています。

デンタル先進国のヨーロッパは競争市場ですが、イタリアに続いて、ドイツにアカデミーを設立し、加工フローのトレーニングを行うなど、事業基盤を強化し継続的な販売につなげてきます。

今後も、デジタル化の進展により、デンタルの工程も内製化が加速すると考えられます。他社にないきめ細かなソリューション提供で、事業の柱として確立していきたいと思えます。

中期的課題への対応

© Roland DG Corporation 2014

Imagine.  Roland

続いて、決算発表と併せて、「自己株式の取得及び自己株式の公開買付けに関するお知らせ」、「役員向け株式給付信託の導入に関するお知らせ」、「株式給付型ESOPの導入に関するお知らせ」、短信の最終ページにある「役員の異動」など、多くのリリースを行いました。

これらは、当社の中期的な課題として、いずれも密接に関連しておりますので、概要をご説明いたします。

主な中期的課題

中期的課題の解決を重点テーマに、構造改革「GlobalOne」を推進

- 事業の柱を増やす
成長分野: デジタルプリンティング、メディカル、3Dものづくり
- 経営層の若返り
次世代経営層の育成・輩出
- 親子上場への対応
「より一層の独立性の確保」と「利益相反の可能性の排除」

©Roland DG Corporation 2014

Imagine  Roland

当社の中期的課題は、大きく3つあると考えています。

まず第一に、かねてより課題として取組んでいる、事業の柱を増やすこと、です。

第二は、事業の舵取りを行う経営層の若返りです。

第三には、親子上場への対応です。

これら課題へ取組む基盤として構造改革が組織面、意識面で必要と考え、「Global One」を打ち出して推進してきました。

事業の柱を増やすという第一の課題ですが、さきほどの事業動向でご説明したように、中期経営計画の重点施策「新たな成長機会の創出」に沿って、サイン市場向けプリンターに次ぐ柱の構築を目指しています。

役員の変動(2014年6月18日付 予定)

■ 代表者の役職変更	
取締役会長兼社長	富岡 昌弘 (現 代表取締役社長)
■ 昇任取締役	
取締役副会長	ロバート・カーチス (現 専務取締役)
■ 新任取締役	
取締役	デビッド・ゴワード (現 執行役員)
取締役	藤岡 秀則 (現 当社顧問)
社外取締役	晝馬 明 (現 浜松ホトニクス株式会社 代表取締役社長)
■ 退任取締役	伊藤 純
■ 新任監査役	
監査役(常勤)	鈴木 正康 (現 執行役員)
■ 再任監査役	
社外監査役	遠藤 克博
■ 退任監査役	佐藤 仁郎

©Roland DG Corporation 2014

Imagine  Roland

第二の経営層の若返りですが、中期経営計画では、グローバルに広がる当社グループが一体となって新たな成長への基盤づくりを進めています。グループの経営においても、グローバル化を進めるとともに、次世代の経営を担うリーダーの育成にも取り組んでいます。

今回、経営層の若返りを推進していく第一歩として、現在、販売面を統括しているゴワード氏ならびに開発部門顧問の藤岡氏を取締役に任じたいと考えています。

また、社長の富岡は、これまでの経験を踏まえ、一段上の目線から舵取りを行うべく、会長を兼任することにしたいと考えています。

加えて、長年、海外の販売面を統括してきましたカーチス専務についても副会長への昇任を予定しています。

さらに、浜松ホトニクス株式会社の晝馬(ひるま)社長に社外取締役をお引き受けいただき、現役の経営者として培った企業経営に関する豊富な経験と高い見識を、当社の経営に活かしていただく予定です。

この他、総会での承認を前提とした役員の変動については、決算短信の最終頁に記載の通りです。

自己株式の取得および公開買付け

主な目的

- 親会社からの自己株式取得により、一層独自性を高め、企業価値向上と資本効率向上を目指す
- 取得後の自己株式は一部を除き消却することで、既存株主様の株式価値向上へつなげる

自己株式の取得及び自己株式の公開買付の概要	
公告日	2014年5月15日(木)
買付け等の期間	2014年5月15日(木)から 2014年6月11日(水)まで(20営業日)
買付け等の価格	普通株式1株につき、3,208円
買付予定数	普通株式3,916,000株
買付け等に要する資金	12,595,528,000円
決済開始日	2014年7月3日(木)

©Roland DG Corporation 2014

Imagine 

そして第三は、親子上場問題への対応です。

当社は、親会社の事業内容である電子楽器事業とは異なるコンピュータ周辺機器事業を展開し、事業活動や経営判断において独立性を保ちながら、良好な関係のもと、事業を営んでまいりました。また近年では、より充実した販売体制を構築することを目的として、親会社の販売子会社から当社部門を分離独立させ、当社の子会社とするなど、独自の海外販売網を整備してきました。

親子上場問題への対応として、親会社の当社株式保有比率を引き下げることにより、親会社が株主の1名となり、少数株主間の利益相反の可能性を減少させ、且つ、親会社の経営方針に影響を受けることなく、今まで以上に当社独自の経営を実現していきたいと考えます。

この具体的手段として、5月14日に開示いたしました「自己株式の取得及び自己株式の公開買付けに関するお知らせ」に記載の通り、いわゆる自己株TOBを実施します。今回の自己株TOBでは、買付予定数 391万6千株、買付け等に要する資金126億円を上限として、当社の発行済株式総数の最大22%を取得する予定です。なお、公開買付けに要する資金として、最大130億円の借入金を調達する予定ですが、その場合でも今後の事業運営や配当方針、財務の健全性を維持できると考えております。

また、取得した自己株は、このあとご説明する2つのインセンティブ・プランへ将来充当する予定の14万株程度を除き、そのほとんどを消却することにより、既存の少数株主様の株式価値向上にもつなげたいと考えています。

そのほか、詳細につきましては、リリースおよび「公開買付け届出書」をご参照ください。

インセンティブ・プランについて

一定の国内外役職員を対象とした業績連動型の株式給付インセンティブ・プランを導入

主な目的

- 中長期的視野をもって業績向上と企業価値増大への貢献意識を高める
- 国内外の役職員が株式価値を意識した経営を推進するための基盤とする
- 経営への参画意識を高め、意欲ある次世代リーダーを輩出する
- 自己株の活用

インセンティブ・プランの概要

	役員向け株式給付信託	株式給付型ESOP(従業員向け)
制度開始	2014年4月1日より開始する事業年度から5事業年度(株主総会での承認前提)	2014年4月1日より開始する事業年度
対象者	当社取締役、執行役員、海外CEOなど一定の役員	一定資格等級以上の管理職社員
給付する株式	当社普通株式を本制度用に信託設定し、分別管理(株主総会での承認範囲内)	当社普通株式を本制度用に信託設定し、分別管理
信託のための取得株式数	約100,000株(予定) ※自己株式を充当予定	約40,000株(予定) ※自己株式を充当予定

©Roland DG Corporation 2014

Imagine 

続いて、当社独自の経営ならびに成長戦略を、株主様と同じ目線で実行していくための基盤として、「役員向け株式給付信託」ならびに「株式給付型ESOP」2つの株式連動型インセンティブ・プランを導入いたします。

当社の取締役、執行役員および海外グループ会社のCEO、当社の管理職社員など、一定の国内外役職員を対象として導入し、中長期的視野をもって業績の向上と企業価値増大への貢献意識を高めることを目的としています。

また、これら2つのインセンティブ・プランは、役職員の意識向上に加えて、先ほどの自己株の用途とする一面もあります。

あらかじめ信託を設定し、受託者を通じて当社株式を取得する際に、自己株を本信託へ割当てする予定です。

対象者には、業績連動目標の達成度に応じて事業年度ごとに一定のポイントが付与され、退任または退職時に保有ポイントに応じた株式の給付を受ける仕組みです。

なお、「役員向けの株式給付信託」の導入については、6月に開催予定の第33期定時株主総会での承認が条件となります。

当社では、これらインセンティブ・プランの導入により、取締役をはじめとする役員はもちろんのこと、管理職社員の経営への参画意識を今まで以上に高めていくことで企業価値の向上を図り、株主・投資家の皆さまのご期待に応えてまいります。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関係する見通しです。これらは現時点(2014年5月16日現在)で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。従いまして、これらの業績見通しのみに基づいて投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

Imagine.  Roland®

ローランド デイジー 株式会社

©Roland DG Corporation 2014

Imagine.  Roland®

以上でご説明を終わらせていただきます。
ありがとうございました。